

## 5 重点農家指導とその成果

### ねらいと成果

子牛の発育及び母牛の繁殖成績の向上を目標に、指導機関の連携による農家指導を実施した結果、①指導農家9戸中6戸で去勢と雌子牛の市場出荷時の1日増体量(DG)が向上した。②指導機関の指導内容が統一出来るようになった。しかしながら飼養規模、飼養形態、牛舎構造等に違いがあることから、一定の指導指針は必要であるが画一的な指導では効果がない。そこで今後の指導においては以下の注意点が必要である。

- (1) 改善の具体的(数値等)目標を設定する。
- (2) 優先順位をつけて具体的プランを提供する。
- (3) 指導内容は必ず科学的根拠のあるものとする。
- (4) 指導機関は情報提供内容を同一のものとする。
- (5) 農家、指導者ともに記録の重要性を認識する。

### 内容

#### 1 対象農家及び指導体制

対象農家は市場出荷時の子牛の発育が不良であった農家を中心に、美方郡7戸(1999年度4戸、2000年度新規3戸)、氷上郡3戸、篠山市2戸とした。指導体制は農協・市町・共済連診療所・農林事務所・農業改良普及センター・和田山家畜保健衛生所・北部農業技術センターによる指導チームを編成し、原則として2か月に一度農家へ立ち入りを実施した。

#### 2 調査及び指導結果

- (1) 指摘した問題点と改善状況は図のとおりで、特に母牛の飼料給与と子牛の飼料、環境について指摘し、改善を図った。

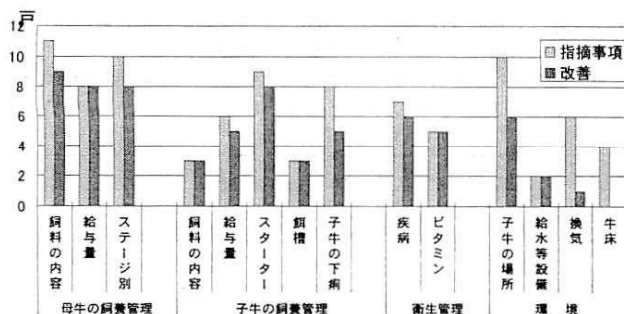


図 指摘した問題点と改善状況

#### (2) 母牛の飼料給与

分娩前後の飼料給与量の不足がみられ、母乳への影響、繁殖性向上のため、母牛のステージ及びボディコンディションによる給与指導を行った。

なお、繁殖成績をみたところ空胎日数は指導前平均146.3日が112.3日に短縮し、種付け回数は1.6回が1.5回に減少し、繁殖成績の改善が認められた。

#### (3) 子牛の管理

スターターの給与を生後1週間とし、3か月間で子牛用配合飼料へ切り替えることを徹底させた。下痢対策としては衛生プログラムによる指導を行うとともに、糞便検査結果に基づく指導を実施した。子牛の発育の指標を市場出荷時のDGで見た場合、指導終了及び継続中も含め6農家については指導前よりも改善が認められた(表)。

#### (4) 牛舎環境

子牛環境の改善を中心に指導した。子牛のスペース、子牛の餌槽、飲料水が確保されていないところが多く、母牛の配置、牛舎内部の改築により、可能な限り子牛の群分けを実施した。

### 今後の方針

指導マニュアルを作成し、各地区のモデル農家を中心に適正飼育管理の普及啓発を図る。

木伏 雅彦(北部農技・畜産部)

表 農家別出荷時DG

		去勢		雌	
		1998	1999	1998	1999
村岡	1	0.84	0.91	0.74	0.79
温泉	1	0.82	0.96	0.76	0.84
浜坂	1	0.85	0.89	0.74	0.84
美方	1	0.87	0.90	0.79	0.83
柏原	1	0.80	0.89	0.75	0.73
山南	1	0.83	0.78	0.73	0.72
青垣	1	0.77	0.82	0.70	0.74
篠山	1	0.65	0.91	0.73	0.75
篠山	2	0.72	0.74	0.67	0.59